

Injury Alert (傷害速報)類似事例

No.49 ブドウの誤嚥による窒息 類似事例 2 (こんにやくゼリー)

事 例	年齢：2歳5か月 性別：男児 体重：11.3kg 身長：85cm	
傷害の種類	窒息	
原因対象物	凍らせたこんにやくゼリー 購入時期は不明、 商品1袋あたりのサイズ：(幅×奥行×高さ)：160×60×230mm	
臨床診断名	誤嚥による窒息	
医 療 費	約 80,000 円 (入院費込みの総額)	
発 生 状 況	発生場所	友人宅
	周囲の人 ・状況	母、患児の友人、友人の母の合計4人、食卓で対象物を食べていた。
	発生年月 日・時刻	2017年 9月 13日 午前10時 45分
	発生時の 詳しい様子 と経緯	患児は母とともに友人宅に遊びに行っていた。その際、友人の母から凍らせたこんにやくゼリーを提供され、患児と友人、患児の母、友人の母の4人で食べていた。患児は椅子に座った状態で凍らせたこんにやくゼリーを少量ずつかじっていたが、最後に残った塊を一気に飲み込んだところ、急に顔面蒼白となり、立ち上がり母親に抱きついた。声を出せない状態であり、患児の母が背部叩打を行い、5分程度で成人母指頭大のゼリーを吐出させた。吐き出したゼリーは全体の4/5程度の大きさであった。誤嚥直後から意識混濁がみられたため、救急要請した。救急隊現着時にも Japan coma scale (JCS) で I-1 と軽度の意識障害を認めていた。
治療経過と予後	当院到着時には意識は清明で、バイタルサインに異常を認めなかった。身体所見上、両肺に弱く rhonchi を聴取した。胸部 X 線検査で両側肺野にびまん性の透過性低下、胸部 CT 検査で両肺に広範なスリガラス様陰影を認めた。全身状態観察のため入院とし、誤嚥性肺炎を念頭に同日から静注抗菌薬による加療を開始した。入院 2 日目の時点で、発熱はなく全身状態も良好であったため、抗菌薬を内服薬に切り替え、退院とした。退院前に母親へ傷害予防教育を行った。 こんにやくゼリー1つを容器から直接吸引する場合のみならず、凍らせた状態のこんにやくゼリーを少量ずつかじっていた場合にも、本症例のように窒息のリスクがあることが示唆された。	